

第8回環境なんでも見本市 「地球温暖化防止！あなたが創るエコライフ」 板橋区内の47団体が出展 —学校も7校参加 環境活動の展示とワークショップ等

2月6、7日（土、日）に第8回環境なんでも見本市が開かれました。

10企業・21の環境団体・7つの学校・9つの行政部署から、様々な企画で、温暖化防止へつながる環境改善のための取組が発表されました。参加者は2,500人を越え、これまでで一番多かったそうです。子どもたちが真剣にクイズラリーをしながら、展示の内容などを聞き取りクイズの答えを言って回っていました。

さて、その中で目を引いた取組で、頑張っている学校の実践をご紹介します。

板橋第五小学校 屋上緑化と緑のカーテン

屋上に軽量土を使った畑を創った。土や緑の力でコンクリートの蓄熱を防ぎ、オクラ、サツマイモ、かぼちゃ、へちま等を育てた。取組の効果として、①植物を育てる楽しさ、②自然の恵み、収穫の喜び、③ヒートアイランド現象を防ぐ、④生きものにとってよい空間を創る。また、見ただけで癒される見事な緑のカーテンを創っている。教室は相当、光と熱が遮断されたでしょうね。



板橋区立中台中学校

中台中学校

地球環境を考える科学映画作り

（昨春秋、中台中科学部の活動は紙面でご紹介しましたが、今回はさらに驚きの映画作りを紹介。）

映画は「世直しお掃除ヒーロー バケツ仮面」。バケツ仮面の敵は、ダストン（ゴミの神）ではなかった。本当の敵は、自分たちがゴミを捨てていることだった。それからというもの、学校中の掃除をして歩くバケツ仮面。脚本、撮影、編集も生徒たち。文化祭で発表したら、大盛況。バケツ仮面のお話「僕たちの街をゴミから救え」を絵本にして、シオスの子供たちへ送ったそうです。



高島第三中学校

科学部によるユーカリリースづくり

高三中の科学部が面倒見ているハーブのユーカリを使ったリース作り。中学生たちが途中までリースを完成させ、来場者へドングリや松のみをつけることを丁寧に教えてくれた。仕上げたリースはお持ち帰り。よいにおいのお土産でうれしくなった。担当の高橋信雄先生は子どもたちを信頼し、別のリースブースで丸2日間どしつと展示当番をしておられた。(脱帽)

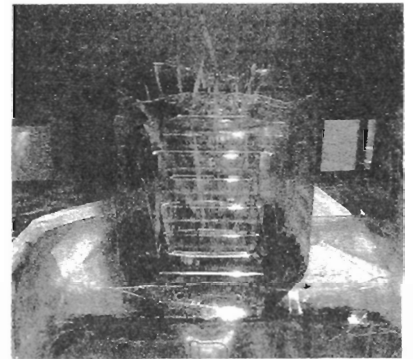


志村第二中学校

総合科学部による炭成金プロジェクト??

入れ物に藻と微生物を少し入れ、そこに底近くに小さな穴をあけたプリン容器にスレッターの紙クズを炭にしたものを入れ、その上に小麦を插くと、しっかり葉が出てくるのを見た。藻は光合成でどんどん増え、CO₂を吸収し、穴から炭を通して種へ栄養を送る。簡単な実験装置を来場者に丁寧に説明し

て、1セットずつ渡してくれた。中学生の堂々とした態度や男女のチームワークが見事で頼もしかった。環境を扱ったカードゲームで入賞したクラブだ。近いうち、さらに詳しい活動の様子をご紹介します予定だ。



緑小学校

サンシテイのグリーンボランティアの方々と の協働による作品づくり

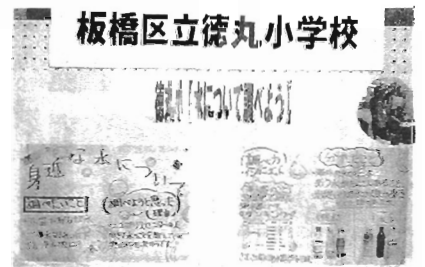
グリーンボランティアの方々が来校し、一緒に指導を受けてきた。わら細工、竹の箸づくり、竹で鉛筆立て・貯金箱・花瓶、木のオブジェづくり、やじろべえなど、色々な作品が学校に並んでいる。地元の方との環境教育の協働である。同じ展示の中に、グリーンボランティアの方のブースもあり、地域と学校が一堂に会してパフォーマンスしている素晴らしい姿だ。



板橋区立徳丸小学校

徳丸小学校 ペットボトルの水検査

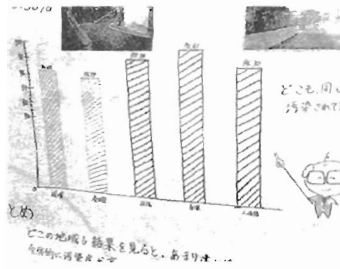
エコポリスセンターの講師の授業がきっかけで、ペットボトルの水の種類を検査。おいしい水はあるのかな。炭酸入りの水を好む人が多いなど、わかったことがあったよ。海外から来ている水でおいしいのもあるようだ。



帝京高校理数コース 大気汚染調査と石神井川の5か所の水質検査

石神井川の5つの地点[板橋、上板橋、赤塚、成増、春日部]で検査を行い、比較した。どこも同じように汚れていることが分かったという。また、大気汚染の調査方法が面白い。松の葉を使って

ほこりなどが詰まっている穴の数を数えると汚れ具合が分かるという。唯一の高校生のブースで感心した。ボランティアで大山高校の生徒たちも活動していて、希望を感じた。



ブースNo. 9
 京高等学校 理数コース
 板橋の水質
 ～石神井
 橋(学校) 99.96%
 春日部
 1 実験方法

学校関係以外の展示で、温暖化防止活動推進協議会からの6つのアクションの呼びかけ。(空調の室温、夏28度、冬20度、コンセントから抜こう、火力を上手く調節しよう、水道シャワーはこまめに止めよう、エコドライブをしよう、マイバックを持とう)

公園を管理しているグループ けやき・さくらの会は、東京湾の海の森公園へ植樹するために、スダジイとシラカシをドングリから育て、3年で、50センチ程に育ててきた。海の森に植樹する日も近い。

とうふ工房大谷口の家はそのものズバリ、とびきりおいしいとうふを創って即売。障害者と一緒に作業し、学校のとうふづくりの授業もやり、販売活動もしている。早速購入して、麻婆豆腐に調理、寄せ豆腐もいただくと、木綿なのに、もちっとした手触りと触感がした。これはうまい!



センスオブアースも、学生たちが来場者に、真剣にフードマイレージ、地産地消等を分かってもらおうと、買い物ゲームをしてもらい話しかけていた。

区内環境団体がともに話し合うきっかけが出来、貴重な、環境情報公開の場・交流の場、協働の場となった。これから、ますますこの環境なんでも見本市は温暖化防止を目指して発展していくに違いないと確信を持った2日間だった。(文責 SOE 寺田)



高島第三中学校 1年1組・4組

「フードマイレージを学んで」感想集

12月に引き続き、1月28日に同校で行われた、SOEとエコポリスセンター主催のフードマイレージに関する出前授業への生徒のみなさんの感想です。

フードマイレージの授業を受けて日本は輸入に頼ってばかりでしかも食料をあまらせ、捨てているということが分かった。このことを知って私は世界にはたくさん栄養不足で苦しんでいる人がいるのに日本は食料を捨てて最低だと思った。輸入に頼らず日本国内で必要な分だけの食料を作って生活していけばいいと思う。そして栄養不足で苦しんでいる人を助けてあげたいと思った。本当にこの授業を受けてよかった。(4組O・K)

いままで私は買い物に行くときに安くてなるべく名前を知っている国のものを買っていた。でもフードマイレージの授業を受けてからすごく変わった。私は食べものをきちんと食べることがエコだと思っていたが食べものをかうときの産地等を考えるということもエコだということが分かった。フードマイレージのことをどんどん生かしていきたい。(4組S・M)

食べ物に国産、外国産なんて考えてもみなかった。国産だけじゃ足りなくて駄目だと思ったけど、自分たちで作ればいいことを学んだ。日本は食料に不足していないからいっぱい作っているんだと思っていたが、真逆だった。日本の農業の人たちは自分たちで国産の物を作っているのに外国産の方が安いからって外国の食品を買って日本の食品が残って捨てる。外国から輸入しているんじゃなくて国産の品をもっと増やすべきだと思う。今回の授業で世界のことが色々わかった。(4組A・Y)

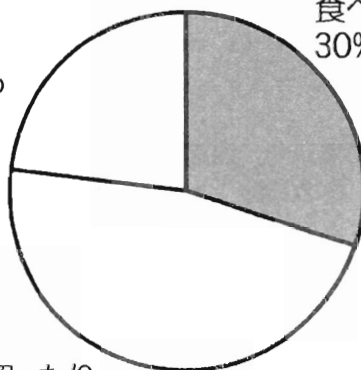
高三中1年1組・食エコ行動目標



とても身近な出来事なのに、私たち日本人がその事を気にせず一日一日を過ごしていたのに恥ずかしくなった。そしてもっと他の国を見習うべきだと思った。このフードマイレージを通して、国内産は外国産より高いことを知った。だけど、国内産より外国産の方が一つ当たりにかかっているエネルギーが多いのになぜ国内産の方が高いのだろうと疑問を抱いた。他にも、東京の場合は国内産の方がよいが、福岡県は韓国の方が近いのでこのような場合はどうすればよいのだろうと思った。フードマイレージはとても大切なことなので、テレビ等で放送してほしいと思った。(4組 1・H)

エコバックや
自転車使用。
野菜を育てる
23%

食べ物を残さない
30%



国産を買ったり、
産地を見る
47%

● S.O.E. 活動報告 (2010年1月)

日	曜	内 容
5	火	関係学校へあいさつ
4	土	新年年賀状返信 挨拶 (~9日まで)
12	火	1月号ニュース原稿作成開始
14	木	ワークショップ会場借入・3学期授業連絡
15	金	区民農園申し込み
16	土	ワークショップ
17	日	1月ワークショップ・1月号ニュース発行作業
21	木	板橋区環境教育第5回プログラム部会出席
28	木	板橋区立高島第三中学校 1年2クラス午前午後 授業 「食べ物はどこからーフードマイレージを学ぶ」

● S.O.E. 活動予定 (2010年2月)

1	月	赤塚第一中 環境授業の計画と準備
2	火	環境なんでも見本市の展示内容 準備 (~4日まで)
5	金	環境なんでも見本市 展示物搬入
6	土	環境なんでも見本市 展示 買い物ゲーム ワークショップ (~7日まで)
7	日	展示 搬出
9	火	2月号原稿作成 (~12日まで)
13	土	第5回全国学校ビオトープコンクール 津田ホール
14	日	2月ワークショップ ニュース発行作業日
15	月	志村第四小 とうふづくり授業打合せ
16	火	赤塚第一中学校 食べ物どこから 1年 出前授業
26	金	志村第四小 3年 とうふづくり授業 午前 午後
28	日	ワークショップ予定

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp